

フィリピン・ミンダナオにおけるムスリムとクリスチャンの結婚

—インターマリッジから見る宗教／民族境界の動態的位相—

平成 22 年度入学

参加したフィールドスクール：ナミビアフィールドスクール

調査地（調査国）：フィリピン共和国

吉澤あすな

キーワード：エスニック境界，ムスリム自治分離運動，構築主義，婚姻実践，差異

自分の研究について

クリスチャンが多数派のフィリピンにおいて、ムスリムは人口の約 5%を占める。南部に位置するミンダナオ群島では、1970 年代初めからモロ民族解放戦線が中心となり、ムスリムが多く住む地域の自治分離を求める運動が武力闘争を伴って展開された。90 年代以降も、数十万人の国内避難民を出す武力衝突が勃発している。

ミンダナオにおけるムスリムとクリスチャンの差異や両者の関係は、差異あるいは共通点に注目して、敵対的あるいは友好的に、様々に描かれてきた。本研究の目的は、家族や親戚として抜き差しならない人間関係を結ぶ中で、現実に経験される宗教／民族的差異と揺れ動く集団の境界を捉えることである。

フィリピンにおいて、ムスリムとクリスチャンの結婚は「インターマリッジ」であると認識される。インターマリッジがそれ以外の結婚と区別されるのは、両性が持つ無数の差異のうち「ある差異」が強調され、さらにそれが集団の差異に還元される場合である。つまり、フィリピンではムスリムとクリスチャンがそれぞれ境界を持った集団として認識されている。その集団意識は植民地経験や自治分離運動などを経て、徐々に固定化／構築／強化されてきたといえる。インターマリッジに関わる人びとは、厳然と存在する差異を日々実感しつつ、周囲と折衝や和解を試みている。ムスリムとクリスチャンの結婚は、集団の差異を表出させると同時に、構築された集団の境界を攪乱する営みである。

フィールドスクールで得られた知見

第一に現地の情報収集・分析において必要な様々な情報収集手段を学ぶことができた。開発プロジェクトで考えてみると、情報収集は計画立案や遂行の基礎となる段階であり、地域研究の知見が生かされる部分でもある。乾燥地帯のように生業が環境依存的な状況では、既存の統計資料、質問票調査、インタビューだけでなく、植生、地質、降水量、蒸発量といった情報が有用だと分かった。

【写真1】根の形状と地層を調べるために acacia eriolba の根を掘る学生



第二に、西欧的な（もしくは日本的な）枠組みによって、現地の自然環境や人びとの生活様式を判断して問題を見出すことに疑問を感じた。例えば、Topnaar コミュニティの人びとは、!Nara という果物の実や種を利用して生活を営んできた。!Nara は栽培することが困難なため、もし自生数が少なければ生活が危ぶまれる。しかし Topnaar の人びとは、そうした!Nara と共にある生活を誇りに思うと話していた。自然に寄り添うようにして生きる人びとを目の当たりにし、人間の生活を「向上」させるためには自然を改変しても構わないという自らの発想を反省した。

【写真2（左）】自生する!Nara



【写真3（右）】!Nara を調理する Topnaar の女性



フィールドスクールの改善点として、開発プロジェクトにおける問題設定からプロジェクト考案までの流れを経験する工夫を提案したい。例えば、「野生動物資源の利用と保護」「平和的な!Nara 資源分配方法と Topnaar コミュニティにおける安定的な生活建設」といったテーマで解決方法をプレゼンテーションする機会があれば、それぞれのアクティビティにより具体的な目的意識を持って取り組めたように思う。

フィールドスクールで学んだことがどのように研究に生かせるか？

アフリカにおける「エスニシティ」概念が持つ意味を再考したことは、自身の研究にとって非常に有意義であった。ナミビアで印象的だったのは身体的特徴と集団の移住ルートが、エスニック集団の差異にとって重要となる点である。ミンダナオにおける複数のムスリム言語民族集団や、クリスチャン移住者などを定義付ける差異は、宗教、言語、服装、生活習慣など様々である。そして、アフリカと比較して人口密度が高いために、近隣集団との関係で集団同定がされる傾向にあるのかもしれないと感じた。

ミンダナオはかつて「約束の地」と呼ばれ、フィリピン全土や日本からも開拓移民が押し寄せた。その結果土地所有をめぐる諍いが増加し現在もその禍根を残している。ナミビアとミンダナオの雄大で豊かな自然と、辿った歴史の違いに思いを馳せる中で、地域の自然環境と人の生活の歴史の変遷を見ることは、紛争などの現在の事象を考える際に重要な視点であると学んだ。



【写真4（左）】乾燥地帯が広がるクイセブキャニオン

【写真5（右）】ミンダナオ南部の農村地域